

第19回 向陽学府小中一体校開校準備委員会 会議概要

| | |
|------------------------|--|
| 1 開催日 | 令和7年12月16日（火） |
| 2 開催場所 | 磐田市役所西庁舎 3階 302～303 会議室 |
| 3 出席者（向陽学府小中一体校開校準備委員） | |
| 学識経験者 | 元校長 元向笠地区長 |
| 地区代表 | 向笠地区長 大藤地区長 岩田地区長 |
| 保護者代表 | 向陽中学校PTA代表者 大藤小学校PTA代表者 向笠小学校PTA代表者 大藤こども園PTA代表者 向笠幼稚園PTA代表者 |
| 学校代表 | 向陽中学校長 大藤小学校長 向笠小学校長 岩田小学校長 |
| 4 事務局 | 学校づくり整備課学府一体校グループ長 ほか2名 学校教育課グループ長 |

会議概要

1 委員長挨拶

改めまして皆さんこんばんは。

この準備委員会ですが、3ヶ月半後には開校を迎えます。

そして3ヶ月後にはそれぞれ小学校3つありますが、閉校式という日が迫ってまいりました。

これまで、この委員会では交通安全、通学路など、どちらかといえば、学校教育を取り巻く環境についての議論がほとんどだったと思います。その辺の声もいろいろと具体化して駐車場の方向性など見えたりしているわけです。

今日はどちらかというと、環境というよりは中身。学校そのものについていろいろと説明をいただく中で、ご意見を賜ればということでお願いしたいと思います。

2 議事

(1) 令和8年度からの向陽学府小中一体校の教育構想について

(委員長)

それでは1点目ですが、令和8年度からの向陽学府小中一体校の教育構想について、まず事務局の説明をお願いします。

(事務局)

資料を映写させていただきました。

この後、学校の方からどういったことを表しているかという組織の話を説明していただけだと思います。まず今、委員長からお話がありましたけれども、3ヶ月半を切って学校の開校に向けていろんなことが見えてきました。

やはり子供たちのために何ができるかっていうことを考えていく中で、教育面というところは、ぜひ学校の先生方の力に頼りながら9年間で子供たちを育てていければと思っています。

磐田市が進めている小中一体校について、今、小中一貫教育は全国的にどこでも行っていますし、基本的に文科省の中でも9年間を通して、もっと言うと幼少時を含め12年間を通してっていうのは言われていますけれども、なかなか施設分離型の小中一貫教育という難しさが学校現場ではあると思います。

それが4月からは9年間の子供たちがそこで生活する中でどういったことが可能になっていくのか、どういったことがこの先にできていくのかというところを今日は皆さんと一緒に確認していきながら、こんな学校になっていくのだというところを考えて共有ができるかと思っております。

資料は学校のグランドデザインと呼ばれるもの、全体の教育構想、そしてそれぞれのプロジェクトごとに分けられたものになります。

それぞれの細かなところをお話していくというよりは、この学校が一体どういう学校なのかということを、私達がちゃんとここで確認できるということが必要だと思っております。教員だけじゃなくて関係する保護者の方や地域の皆さんと一緒にになって、子供たちを育てていけるような、そういった会にしていきたいと思います。

それではこの資料の見方について説明を宜しいでしょうか。

(委 員)

グランドデザインをもとに話をします。

学府の教育目標ということで小学校中学校共通の目標、「夢をもち共に輝き「あい」があふれる児童・生徒」としていきます。

校訓「至誠」。それから各教育理念ということで「日本一やさしさが育つ学校づくり」これが理念と考えています。

この学校目標や教育理念ですけれども、何年も前から前任の校長を中心に小中で研修をして議論を深めて、この目標を掲げて今もう取り組んでいるところです。

ただこれからは学ぶ場所が一緒になって本格的になっていくということになります。

学府で育みたい3つの力ということで、「あい」という言葉をうまく使ってですね、寛容自立創造ということで、仲間、自分への「あい」。社会環境への「あい」というところで、いろんな「あい」を学んで身につけていくということです。学校生活の中では、競い合う場面もあるし、お互いを認め合う場、助け合う場、当然話し合いや学び合い、いろんなものがあると思うのですが、それぞれの場で力をつけていければというふうに思っています。

学校の経営目標については、向陽学府小中一体校の礎をつくるということで、来年度に

向けた環境に心理的安全性、学びの礎、チーム向陽ということで、いろんな人とも知り合って仲良く同じ方向へ向けていきたい。

「まなび・かかわり・すこやか・つながり」というふうに大きくあるのですけども、「地・徳・体・地域連携」ということで、それぞれ4つのプロジェクトにわかれて、子供たちの力を伸ばしていけたらというふうに思っています。

幼児、12年生、34567年生、89年生、あと青年となっているのですけども、252という形で9年間のカリキュラムとなっています。6年生と7年生というと、小学校6年生と中学1年生のところ2つですけれども、そこをくっつけることによって中1ギャップの不登校が起こりやすいところを失くすような取組ができます。具体的な内容は中学校の先生が小学校の方に乗り入れということで授業をしに行くことや、そういうところで顔見知りになっていくなど、思いやりを持てるような学校にしたいと思っています。

「まなびプロジェクト」、これがさっき言ったグランドデザインのそれぞれのプロジェクトになります。環境から道徳教育、総合的な学習の時間、家庭学習について、9年間でどんな力をつけたか、そんなふうに載せてあります。

「かかわりプロジェクト」は、学級活動・委員会活動、異年齢交流、あいさつ・にこにこ活動、この辺を柱にして、9年間どんな力をつけたいかとまとめています。

「すこやかプロジェクト」では、心身の健康、体力向上、食育、安全指導、生徒指導です。

最後に、「つながりプロジェクト」です。これについては、接続・連携としてキャリア、地域への愛ということで、地域との繋がりを意識しています。

コミュニティスクールということで学校運営協議会があって、地域の方の意見を聞きながらまた協力してもらえる環境を作っていくということで載せてあります。以上です。
(委員長)

いろんな言葉を聞いて、感想とか意見が出しそうな部分もあると思うのですが、質問など、どんなことでも結構ですのでいただきたいと思います。どうでしょうか。先生方がいろいろ何回もいろんな会議をして、言葉としてこういうふうにしてくれました。これをさらに教育課程に具体化していくっていうのは大変じゃないかなと思うのですが、どんなところでもいいですよ。

特にご意見ないということは、これに基づいてぜひ良い教育を行ってくださいという思いが皆さんにあることだと思いますので、ぜひ先生方で自信を持ってやっていただければと思います。

では次の議題に移ります。

(2) 開校後の諸課題解決に向けた協議体制について

「NEXT コミュニティ・スクールの推進について」(学校教育課)

(事務局)

資料は令和7年度開校準備委員会スケジュールというものになりますけれども、開校

準備委員会の中ではいろいろな代表の方が、個人の意見を超えてお集まりいただいています。

そういう声を結集して4月の開校を迎えるわけですけれども、開校後の諸課題であるとか、実はこの委員会の中で、本来であればご協議しておきたかったこともございます。そういうところを今後どういった形で協議をしていくのか、課題解決を図っていくのかというところのご意見もあったかと思います。そのところについてお話をさせていただきたいと思います。

開校準備委員会以前から検討委員会という形で平成30年から多くの方がこういった場に代表として参加いただき、ご意見を建設的な立場で言っていただきました。この形が結実してきており、最後のゴール地点になってきています。

次回は2月25日。このときには4月当初の安全な通学支援体制ということで、安全な通学のところを最後確認して、そして3月25日は総括という形で、開校準備委員会は幕を閉じたいと思います。まずはそこをお伝えします。

では、協議しきれなかった部分とか、開校後いくつか残る課題があります。令和8年度以降も私達としても責任を持ってやっていかなければならないと感じているところです。

市教委と学校運営協議会、学府協議会とあります。私達市の方で、このあとやはり主軸を持って進めていかなければならぬのが、まずは地域連携室のあり方です。本来であれば今年度に地域連携室の協議をしていく予定ではありましたけれども、いくつか変更をした部分がありますので、今後引き続き協議していきます。放課後児童クラブも来年1年間は既存の小学校の校舎の中になります。

引き続き駐車場等の整備工事、特に学校の北側の道路の整備工事が進んでいきますので、こういったところについての地域の方々への説明などを進めていきます。

そしてスクールバスの運行については、令和8年度から進めています。何回も説明会の中でもいろいろと質問が出てきますけれども、おそらくやっていく中でいろんなことが変わってくる部分もあると思います。人数が変わればもしかするとルートも変わって乗降場所も変わったりする可能性もありますけれども、そういうスクールバスの適正な運行という方向性についても、私達の方で進めています。ただ私達だけで決めていくということはあまり良いことではないと思っていますので、学校とも地域の皆さんとも連携を図りながら進めていきたいというところがあります。

それ以外に、学校が開校していくと、小学校だけの課題、中学校だけの課題、小中一体校としての課題が出てくると思います。私が思いつくところでは、やはり3つの地域づくり協議会が一つの校区の中に存在するというところの地域との繋がり、そして、9年間を貫く小中一貫教育、教育活動全般に関する部分のいわゆる子供を中心に置いた課題というものはいくつか出てくると思います。こういったところは学校運営協議会が役割を担っていくだろうというふうに考えています。

今日は学校教育課のグループ長も参加しています。その理由としては、学校運営協議会も、磐田市としてより機能的にしていきたいといったところがあると聞いています。この

後説明をしていただこうと思っています。

磐田市初のA型、一体型の小中一体校としては諸課題が大変あると思います。その諸課題をどうやって乗り越えていくかっていうところは学校だけでおそらく解決できないことだと思います。保護者の方の力とかいろんな方の力を借りて、みんなが一つずつ協力をしていくところで、解決が図られているところがあるかと思っています。その解決を図っていくための組織体が学校協議会だろうと思いますのでそういう機能をうまく使いながらよりよい学校作りを目指して、私達も責任をもって連携を図っていきます。

準備委員会は一旦幕を閉じますが、その後も子供たちのために努力してまいりたいと思いますので、そういうイメージであるということをまずもってお知らせさせていただきました。

では、学校運営協議会というもの自体が、どういった役割かというところを学校教育課から説明させていただきます。

(学校教育課)

それでは皆さんこんばんは。学校教育課から、N e x t コミュニティスクールという資料で説明します。

先ほど校長から、グランドデザインの説明がありました。その中で、まさにグランドデザインの「つながり」のところが、まさに学校運営協議会であり、またコミュニティスクールということになっています。

皆さんもご承知の通りコミュニティスクールというのは、学校運営協議会が設置されている学校のことを言います。

磐田市ですが、平成 25 年度からコミュニティスクールが開始されました。それから約 12 年が経ちいろいろな学府、学校で、現在 32 の学校運営協議会があります。来年度からですが、磐田市として初めての A 型の一体校での学校運営協議会ができるということで、ながふじ学府では A 型ではありませんでした。ですので、小学校の学校運営協議会と、中学校の学校運営協議会が一緒になる磐田市の中で初めての試みとなっていきます。

では、なぜ N e x t コミュニティスクールが必要なのかといったところからまず入りたいと思います。

先ほどのコスモスカリキュラムを作る中で、いろいろなことを学校の方で検討されていました。そういう中にいろいろな教育課題があります。予測が難しい時代ということで、子供たちにどんなことを身につければいいのかとか、どんな課題を解決していけばいいのかとか、学校だけではどうにもならない状況が今ございます。キーワードになってくるのは、地域とともにある学校づくりということで、今までやってきましたが、今まで以上に地域と学校が一緒になって、教育課題に取り組んでいく必要があります。

資料には、学校運営協議会と地域学校協働本部とありますが、本部というのが存在しているわけではなく、先ほど説明がありましたグランドデザインにもありますが、地域の方とか、お店施設だとか、P T A 公共機関、専門の方などが地域学校協働本部というような形でありますので、そこを繋いでいる方がコミュニティスクールディレクター (C S D)

です。現在向陽学府でもコミュニティスクールディレクターが活躍してくださっています。

今までのイメージでいくと、地域のいろんなリソースを学校に入れていくといったところがすごく大きかったです。磐田市は静岡型コミュニティスクールという形でスタートしています。どういうことかというと、地域の力を学校へといったベクトルがすごく強かったです。

今、実は「地域から学校」から「学校から地域」にするベクトルが少しずつ生まれてきています。そういったところは一緒になって考えていくところで、地域とともにある学校づくりができるというふうに考えています。Next コミュニティスクールはまさに一方通行ではなくて、両方通行していく、そういうことが必要になってまいります。学校協議会の委員の方が今日も参加してくださっていますが、まさに学校と連携を強めることで、学校と地域の信頼を深め、そして一体となって学校運営の改善とか、それから子供たちの健全育成も、今もやってくださっておりますが、そういったところを強めていく組織であります。そういったところに磐田市教育委員会としても力を入れていきたいと考えております。

協議会メンバーについてです。ここにいる方は、まさにそうですけれども教育委員会が任命する委員には、地域の多様な専門性を持つ方が入ってくださっています。聞かれているかもしれません、委員は20人以内としていますが、向陽学府のように2つの学校が1つとなって協議会ができる場合はその限りではございません。岩田小、大藤小、向笠小それから中学校全部入れると、20から30人近くかなと思っています。

回数ですけれども、4回という基準を作っていますが、今後、必要に応じて追加の学校運営協議会を実施することは可能です。特に向陽学府はそういったことが必要になってくると思います。

それから委員の方達の資質向上として、第1回目の会合のときに研修会をやろうという予定です。今のところ全員が集まらなくても、オンデマンドでできるような形で今考えています。いろいろな研修会にも出られるように話し合いをしております。コミュニティスクールディレクターの研修だけではなく、学校運営協議会の皆さんのが他の自治体、他の学校の情報を得ながらブラッシュアップしていくことが可能になります。

テーマはいろいろあると思います。キーワードは熟議という言葉です。いろいろな課題を話し合い、方向性を出し、作っていくというのがポイントになってきます。そういったことが向陽学府でできるように一緒にあって考えていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

(委員長)

ありがとうございました。

新しい学校ができ小中が1つになるような運営協議会が組織されるのではないかなどいう中で、先日、小中のそれぞれの協会員が集まつた研修会がありましたよね。

そんな中でも次年度の学校協議会のメンバーとか、内容とか、分科会で結構いろんな意

見をもらったと思います。

いずれにしましても、普段教育に直接関わってない方にはなかなかすぐ説明されても理解しにくい部分もあると思いますので、それも含めてご質問ご意見等を出していただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

(委 員)

例えば不登校だとか学校に行きたくない子たちに対して磐田市の考え方なのかわからぬいですが、新しいコミュニティスクールとして、活動が難しいような子たちに対しての何かサポートだったりとかっていうのも含まれたりするのですか。

(学校教育課)

お子さんの状況によります。場合によって、学校の中で何とかその居場所を作れるじゃないかっていうようなことであれば、そういったアイディアを出していくことができます。

テーマとして、場合によって不登校のお子さんがいたときに、どういったサポートが地域としてできるかっていうことはあると思います。

(委 員)

目指す子供の姿とかいろいろ見る中で、大人が作り上げていく学校なんだなっていうを感じるんですけど、集団の中で役割を理解して進んで働くとか誰がこの役割を決めたのですかって思う。やるべきことを行うって、そのやるべきことは何なのでしょうか。そのやるべきこととか役割を子供たちが自分で探して見つけるチャンスをいかに与えるかが教育だと私は思っている。それを全部大人が決めて大人がやるのであれば、それは学ぶ主体性を奪っている行為ではないなと思う。できれば、子供たちに決めさせるところを学校運営の中でも入れてほしいです。

例えば、1年生でやるべきことを行うということを最初にやることが本当に大事なことかと常に思っている。幼稚園でずっと遊んで過ごしてきて、急に上がった瞬間にずっと座らないといけない。それをやってきた1年生が果たして学校を楽しいと思って通っているのかというところも含めて、1年生でせっかく同じカリキュラムで学ばせるのであれば、チーム担任制にするなりして、1、2年生の中で能力に合わせて勉強させるとかですね。

学びの場面でも、国語だろうが算数だろうが、そこでも一緒にやれるのであれば、能力に応じて勉強させるとかっていうこともできるのではないかなど期待しているのですけどそういうところはどうお考えでしょうか。

(事務局)

学校としてはどうですか、今でも結構やっていることもあると思うのですけれども。

今いただいたご意見について、どういう学校作りしていくかっていうところで、委員の意見が反映されていくような場が今後あるのかもしれませんし、実際今の学校ではそういうことを子供たちに選択権を多く与えてやっているじゃないかなと思うのですけれども。どうでしょうか3小学校でも、必ずしも大人がやるべきことだけじゃなく、子供

たちが自分で自ら選択してとか判断してっていうところは非常にあるじゃないかと思いますけれども。

(委 員)

その辺りの話について、全てはもちろん難しいけれども、子供たちに選択の場を与えるっていうのはどの学校でも力を入れてやっていきましょうってなっているところです。なので、私たちはどういう部分であれば子供たちに選択権を与えられるかとか、どういう部分であればやはり教師が示したりするべきなのか、そのバランスの部分が大事だと思っていますので、そんなことは、この向陽学府でも考えてきたところではあります。

(委員長)

さっき不登校の話題がありましたけれど、数年前に比べて、静岡県も小学校不登校が2.5倍、中学校が1.5倍くらいに増えているのですね。磐田市も似たような状況もあると思います。

そういう場合、やはり学校が、不登校の状況というものを学校協議会の場に、個人名を出すわけにはいかないけれども、こういう実態であるということを地域に示して、対応策とか、教育の専門家でない方のいろんな参考意見を聞いて広げていくことを協議会の中においていかないと、ただ表面的な会議で終わるような状態なって意味がなくなってしまう。

(委 員)

主体性というところで、例えば、中学校に校則があります。昔は大人、教員がルールを作っていましたけれど、今は子供たちに考えさせることで、このルールが本当に必要かどうか、そこからいろいろ議論をしている。先日は靴の色を議論した。考える場をつくることで子供たちがルールを決めて、それを守るという風に、今変わっているのですね。

(委 員)

そのガチガチな頭はなぜできてしまったのでしょうかって思うのです。

小学校に上がった段階でまず教科書の持ち方を指定されます。

(委 員)

委員長。グランドデザインの個別な質問は、あとで個別に聞いていただいて、今話し合っていることは何でしょう。今は、学府一体校の来年に向けての会議体について話し合っています。

(委員長)

コミュニケーションスクールの推進についてですね。どうぞ。

(委 員)

学校教育課の内容で質問していいですか。

(委員長)

どうぞ。

(委 員)

来年以降に積み残した内容で、地域連結室、放課後クラブの件について、それを学校運

営協議会でできれば素晴らしいスリムな会議体で権限を与えられて解決していくと思うのですよ。

ところが今やっている学校運営協議会は、学校の基本の教育方針の承認がメインでして、プラスこうしてほしいこういう問題があるよねとグループワークをやって1年間終わっているのが現実なのです。そこにコミュニティスクールや地域支援室を作っていくこうということを入れたとして、学校運営協議会で果たしてできるのだろうかとう心配がある。学校運営協議会が、開校準備委員会委員の決定権と同じぐらいの権限は持たせてもらえるのですか。結局話し合いしても、決定権のない学校運営協議会だと解決できないと思うのですよ。

(学校教育課)

ありがとうございます。先ほども述べましたが、まさに、おっしゃったように承認をするだけの会ではございませんので、とにかくいろいろな課題を解決していくのが学校運営協議会になります。ですので、基準は4回開催としながらも、要は熟議ができる時間をしっかりと確保していくということです。必要なことがあれば、プラスでやっていくという形になっています。

(委員長)

特に来年度は、このような課題がどうしてもあるわけですね。そこを協議会としてどう進めていくか。どういうメンバー構成がいいのか、年間の計画はどうすればいいのか。予算面なども教育委員会とどうリンクするのか。市教委のメンバーも入れてもらわなければならないとか。ちょっと整理していかないとただの会合になってしまふということですね。

(委 員)

それを心配しています。できたら終わりじゃないですよ。委員会や部会みたいに運営協議会の中に、設置して、4回か6回か分からぬが、今進めなくてはならないことをやって行かなければならぬ。多分、地域連携室だけやって年間4回だね。それだけで1年終わる。

(委員長)

城山学府は、学校運営協議会というものが当然あるのですが、そこはもう人数が限られた人数で実働しているので、そこにいろんな部会のようなものがくっついていると聞いている。

(委 員)

例えば地域連携室については、学校との話し合いの中のメンバーにかならず地区長は必要ですね。

例えば、放課後児童クラブだけの話だったら、学校とPTAぐらいでも話ができるじゃないかなと思う。そういう部会制にするのであればある程度すみ分けもできる。

(委員長)

この場では結論は出にくいと思います。

(委 員)

きっと今イメージできないのは、市教委と学校協議会がどう連携していくのだろうと思う。それは、協議会の中に市の職員も入ってくるのかとかそういうところじゃないですかね。

(委 員)

話は変わるのですけど、気になったことがあって、今この開校準備委員会ですが、岩田こども園が入っていない。それは民営化したからっていう理由なのか、今 P T Aがないのですよ。そういう理由で P T A代表がいないから呼んでないのか。今の向陽学府のグランドデザインが幼児から青年になっているじゃないですか。幼児ってなったとき、確かに岩田こども園は民営化してから、地元の人じゃない園児もいます。民間のこども園なので、教育指針を強制することはできないのかもしれないけど、でも交流とか、協議をする場があつた方がいいじゃないかと思うのです。

今度の完成記念式典にこども園やこども園の園長は多分呼ばれないのじゃないですか。

(事務局)

ご案内をする予定をしています。委員選出についてもお声かけはしました。

(委員長)

どういう協議会を作るかっていうことにはかかるような気がする。

(委 員)

校長たちの中では、この前の学府協議会を受けて、人数を絞っていく方向も考えているということに対していろんなご意見いただいた。どうしていこうかっていうのを考えました。少し時間はいただきたいなと思います。

(委 員)

N e x t コミュニティスクールのお話をいただいてすごく楽しみな部分かなと思ってます。それと同時に 3 小学校が 1 つになるところで、例えば向笠地区の課題を 3 地区で話すというのは難しい部分が出てくるのかなって感じたので、例えば先ほどの部会制みたいなものを考えるときに、どのような形ができるかなと期待と同時に心配な部分もある。その点も組織を作るときにご考慮いただけたらなと思います。

(委員長)

時間の関係でもう 1 つ協議したいことがあります。

協議会のことについては、少し検討要素として考えていただきたいと思います。

(3) 開校式の実施時期・方法について

(事務局)

事務局よりご説明します。

2 月 14 日に完成記念式典の予定をしており、その日の午後に、地域の方や保護者の方、児童生徒の皆さんも見られるようない内覧会を 1 時から 4 時で予定しています。

3 月になります 13 日 14 日両日に 3 小学校の閉校式が行われます。

そして4月に入って開校のことです。元々は4月4日の土曜日に地域の皆さんと一緒に開校式典という形を予定はしておりましたけれども、いろいろな立場の方からいろいろなご意見をいただきて、どういうスタートを切るべきかというところでお話をいただいているかと思っております。

立場が変わればいろいろなご意見があるのは承知しておりますので、一旦開校準備委員会に預からせていただきたいということで、今日ここで皆さんのご意見を承ったものを開校準備委員としての方向性としていきたいと思っています。

A B C案とあります。

具体的な違いとしてはですね、案をもって説明させていただきますと、向陽小学校の始業式が4月13日ですので、併せてその始業式の前に開校式という形でとり行うものです。

次の案は、3月の閉校式のときには校旗の返納を各小学校からしていただきますので、今度は新たに校旗の授与をする校旗授与式のようなもの。この4月13日が小学校の初日ということもあって、時間のことも考えると校旗授与式という形で短時間で行うという案です。

または次に、別の日に時間を作つて式として実施するもの。ある程度、実際に他の自治体を見ると、ゴールデンウィーク中に開校式をやっている自治体もなくはないです。

そして最後D案というのは、4月当初、まだ子供たちが登校していませんけれども、先生方職員の皆様に校旗を披露させていただくというところで4つの案で考えさせていただいている中での方向性を準備委員会として持つていただきたいと思っています。

ご意見いただく中で方向性が少し見えてくれればと思いますので何かあればよろしくお願ひいたします。

(委 員)

A案でいくと、小学校はその日が初めての日です。

今後のバスのシミュレーションにも関わってくるのですけど、全然バスにも乗ったこともないとか、自分の靴箱もわからない中になる。

(委 員)

そう考えると学校が一番いい方法で開催したら良いと思う。

(委員長)

そうそう現場の話かな。

子供がいた方がいいのでしょうか。

(委 員)

閉校式で子供たちがいる前で旗を返されるという形ですので、そうしたら子供たちが見ている前で、新しい旗をもらう校長先生の姿は見せたいなと思っていますけれども。

開校式って言うと開校のときになる。校旗授与だったら少し落ち着いてからでもいいという考え方もあるかな。

(委 員)

多分逆算して考えなければならない。結局通学のバスの時間に縛られてしまう。子供た

ちがお昼ぐらいには家に着くような時間で帰れないといけない。そうすると何時に最終バスを出さないといけないのか、そしてそのためには何時に1便を出さないといけないのか、逆に朝来た時間やバスが到着する時間で学校として使える正味の時間をして、その中で当日やるとするならばどの提案が可能なのか。ちゃんとその時間をしっかり追つていかないと、今机上の話をしているので。やはり子供たちに急ぎなさいっていう話になつたらそれはもう全く違う話になってしまいます。子供たちが落ち着いて受けられるものはどういう形かをもう少し時間を追いながら考えた方がいいと思います。

(委員長)

学校と事務局で検討いただけるということでいいですか。

(事務局)

学校と教育委員会に任せるという、委員の皆さんのお意をいただけるだけで全然違います。やはり皆さんで作ってきた学校作りだと思いますので、ありがとうございました。

3 連絡事項

※事務局より、竣工式及び内覧会の日程、今後の会議予定を連絡

4 閉会

(事務局)

工事の方は予定どおり1月末で建物の建設工事完了ということで進んでおります。その後も駐車場ですとか、いろいろとまだ引き続き工事が入る部分はありますけれども、一旦そこで区切りということで、次回は2月14日の竣工式で皆さんのが一堂に会することができればと思っております。

それでは、以上で第19回の開校準備委員会を終了します。